

# 令和 5 年度 鹿児島県 英語教育改善プラン

## 目標

目標（小学校） 目的・場面・状況を明確にした言語活動及び「CAN-DOリスト」形式による学習到達状況の確認等を確実に実施する。

### 1. 現状

#### 改善が進んだ点

- ①・・・授業における目的・場面・状況を明確にした言語活動の割合が90%を超えている。  
(R3 : 95.3% R4 : 96.1%)
- ②・・・パフォーマンス評価の実施状況100%

#### 未だ改善が必要な点

- ①・・・「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の公表の改善が図られているが60%程度

### 2. 分析

- ①・・・各研修会を通して小学校外国語科の指導方法について周知が図られたことによる。
- ②・・・各研修会を通して言語活充実と評価の方法について周知が図られたことによる。

- ①・・・「CAN-DOリスト」の形式で設定した学習到達目標を児童と共有することの効果について十分に理解が図られていないことや、学習到達目標を踏まえた小中学校の連携にまで至っていないことが要因として考えられる。

### 3. 施策・事業

- ①・・・「英語指導力向上研修会」
  - ・ 研修対象者を県内全ての小中学校の外国語担当者とするにより小中学校の円滑な接続を推進し、継続的な研修にすることで、「理論」と「実践」の充実を図る。
- ②・・・「イングリッシュ・デイ・キャンプ」
  - ・ 児童生徒にA L T等の指導による実生活に即したコミュニケーションを体験さ、その成果を還元する機会を設ける。
  - ・ 英語担当教員が、A L T等と一緒に企画・運営を担うことにより、指導方法の改善に繋げる。

- ①・・・「英語教育指導資料作成委員会」
  - ・ 県内の英語教育担当指導主事による県の課題改善に資する資料作成を行い校内研修等での活用を促す。(年4回)

令和7年度までに、一定の英語力を有する新規使用者を50%以上確保できるように年次計画の改善を図っていく。

- ① 中学校又は高等学校英語の免許状を有する者
- ② 2年以上の外国語指導助手の経験者
- ③ CEFR B2相当以上の英語力を有する者
- ④ 海外大学、又は青年海外協力隊若しくは在外教育施設で、2年以上の英語を使用した海外留学・勤務経験のある者

# 令和 5 年度 鹿児島県 英語教育改善プラン

## 目標

目標（中学校） 目的・場面・状況を明確にした言語活動及び「CAN-DOリスト」形式による学習到達状況の確認等を確実に実施する。（数値目標：英語による言語活動の時間が50%程度以上の割合が90%以上、「CAN-DOリスト」による達成状況の把握が95%以上）

### 1. 現状

#### 改善が進んだ点

- ①・・・授業における目的・場面・状況を明確にした言語活動の割合の増加  
(R3 : 67.2% R4 : 77.1%)
- ②・・・「話すこと」「書くこと」におけるパフォーマンス評価の実施状況90%以上

#### 未だ改善が必要な点

- ①・・・CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合について増えてきているが国の目標値を若干して回っている。(R3 : 44.4% R4 : 47.4%) 今後も外部試験（英検IBA等）の活用を通じた生徒の英語力の見届けを行う。
- ②・・・「CAN-DOリスト」による達成状況の把握は増加しているものの90%未満

### 2. 分析

- ①・・・英語指導力向上研修会を年度当初（理論）夏季休業中（実践に基づく協議）の年2回実施し、理論に基づく継続的な取組を全県下で取り組んだことによる。
- ②・・・各研修会を通して言語活充実と評価の方法について周知が図られたことによる。

- ①・・・到達が望まれる英語力に向けて3年間を見据えた指導計画になっていないことや評価の際に客観性のある到達目標の設定が不十分なことが要因として考えられる。
- ②・・・「CAN-DOリスト」の形式で設定した学習到達目標に基づいた授業設計及び評価の在り方について十分に理解が図られていないことが要因として考えられる。

### 3. 施策・事業

- ①・・・「英語指導力向上研修会」
  - ・ 研修対象者を県内全ての小中学校の外国語担当者とすることにより小中学校の円滑な接続を推進し、継続的な研修にすることで、「理論」と「実践」の充実を図る。
- ②・・・「イングリッシュ・デイ・キャンプ」
  - ・ 児童生徒にALT等の指導による実生活に即したコミュニケーションを体験させ、その成果を還元する機会を設ける。
  - ・ 英語担当教員が、ALT等と一緒に企画・運営を担うことにより、指導方法の改善に繋げる。
- ①・・・「英検IBAを活用した英語能力育成事業」
  - ・ 生徒に学習成果を実感させるとともに、教員が平素の指導と評価の取組を振り返り、指導改善のヒントを得る機会とする。
- ②・・・「英語教育指導資料作成委員会」
  - ・ 県内の英語教育担当指導主事による県の課題改善に資する資料作成を行い校内研修等での活用を促す。(年4回)

# 令和5年度 鹿児島県 英語教育改善プラン

## 目標

生徒の英語による発信力を高め、英語力向上を目指す。  
(生徒の英語力状況50%・言語活動時間の割合50%)

### 1. 現状

#### 改善が進んだ点

- ① パフォーマンステスト（S,W両方実施）は83.0%[全国48.6%]と高い。
- ② 生徒の英語力の状況は全国平均[48.8%]と比較すると低いが、R3（37.1%）→R4（38.9%）と伸びている。

#### 未だ改善が必要な点

- ① 生徒の英語による言語活動時間の割合（50%以上）は、34.7%[全国52.9%]と低い。
- ② 授業における英語担当教師の英語使用（発話の50%以上）は29.0%[全国46.1%]と低い。

数値はR4年度「英語教育実施状況調査」による。

### 2. 分析

- ① 各種研修において、パフォーマンステストの実施・評価方法の指導を行っている。また3観点になり、「話すこと」「書くこと」の評価を実施する必要性を伝えている。
- ② 英語教育改善プランにおける研修協力校（5校）での生徒の言語活動例を各種研修等で情報共有している。

- ① 講義型の授業が行われている学校がある。インプットに時間をかけすぎて、生徒の言語活動に結びつけていない学校もある。
- ② 簡単な指示等は英語で行っているが、内容理解の際に日本語の使用が見られる。インプットの時間が多いのが課題である。

### 3. 施策・事業

- ① 教育課程実践研究会  
パフォーマンステストによる評価方法を各学校で明確にし、生徒の英語力の見取りにも使用できるようにする。
- ② ・ 高校生イングリッシュトレーニングキャンプ  
生徒の英語使用を増やす機会を提供し英語力向上を目指す。  
・ English Café in Kagoshima  
生徒の英語使用を増やす機会を提供し英語力向上を目指す。
- ① 学校訪問等における指導改善  
研究授業等における指導助言でICT活用や言語活動の充実を促す。
- ② ・ English Café in Kagoshima  
教員の英語使用を増やす機会を提供し英語力向上を目指す。  
・ 外国語指導助手の指導力等向上研修  
効果的なALTの活用と授業法の実践研究を推進する。